

青い　さんびか

大矢詩季

アルコールが

やさしい目をして見守っている

卓

哲学も詩も

彼らにはかき混ぜられて

渦

何者でなくても

登壇が許されるから

快

熱を帯びて

絵巻になった

夢

このままきつと

とどまる気がしたのに

夜

アルコールは

やさしい目をして見守っている

卓